

全天球映像における鑑賞方法による印象評価について

久野 暦、永野 達也、中島 滉一、原 和沙、須藤 信
久留米工業大学
e154111kk@kurume-it.ac.jp

キーワード: 全天球映像, 印象評価

1 はじめに

2005年、愛知の「愛・地球博」にて世界初の全天球映像が展示された[1]。全天球映像とは、空全体、周囲の風景、足元の映像に至るまでの360°全ての風景を収めた映像のことである。全天球映像の鑑賞は、球体内部の壁全てがスクリーンとなる「地球の部屋」のような鑑賞方法や、Google Spotlight Storiesのような360°をインタラクティブに見回すことができるものなどがある。本研究では、前述したような全天球映像における鑑賞方法に焦点を当て、その違いによる印象評価を行うこととした。

2 研究目的

全天球映像における鑑賞方法は多様にあるが、鑑賞方法別の評価を行ったものはない。本研究では、Google Spotlight Storiesによる鑑賞方法の評価を行うことで、その効果を明らかにすることを目的とする。

3 研究方法

本研究では、鑑賞する映像として Google が制作した全天球映像である「Pearl」を用いる。全天球映像の鑑賞方法は、以下2通りの方法を用いる(図1)。

- I iMac を使い、Youtube にて「Pearl」を鑑賞する。その後、アンケート用紙を記入してもらう。
- II iPhone 6 を使い、公式 Youtube アプリにて「Pearl」を鑑賞する (Google Spotlight Stories による鑑賞)。その後、アンケート用紙を記入してもらう。

調査は久留米工業大学の学生、教職員18名を対象とし、手順 I, II の順に行う。使用するアンケートの評価語については、井上・小林 (1985) [2]の研究で示された350の形容詞を KJ 法によって類似項目をまとめることとする。まとめた形容詞対を評価項目として使用する[3]。使用した形容詞対は「明るいー暗い」、「やわらかいーかたい」、「静かなーうるさい」、「重いー軽い」、「活発なー不活発な」、「好きなー嫌いな」、「良いー悪い」、「楽しいー苦しい」、「派手なー地味な」、「大きいー小さい」、「愉快なー不愉快な」、「綺麗なー汚い」、「動的なー静的な」、「素直なー強情な」、「深いー浅い」、「広いー狭い」、「はっきりしたーぼんやりした」、「新しいー古い」、「感じの良いー感じの悪い」、「生き生きしたー生気のない」、「にぎやかなーきびしい」であった。



図1 (左:iMacによる鑑賞、右:iPhone 6による鑑賞)

4 調査結果

前述の研究方法にてアンケート調査を行い、以下(図2)の結果を得た。iMac を用いた鑑賞では、「静かな」、「動的な」、「素直な」、「感じの良い」、「生き生きとした」、「にぎやかな」の形容詞について有意、もしくは有意傾向であった。また iPhone 6 を用いた鑑賞では、「やわらかい」、「派手な」、「大きい」、「愉快的」、「深い」、「広い」の形容詞について有意、もしくは有意傾向であった。

	明るい	やわらかい	静かな	重い	活発な	好きな	良い
pre(iMac)	3.17	2.89	4.72	4.50	3.11	3.00	3.06
post(iPhone)	3.11	3.50	4.11	3.78	3.00	2.94	2.61
t-test	0.579	0.004	0.000	0.579	0.430	0.668	0.616

	楽しい	派手な	大きい	愉快的	綺麗な	動的な	素直な
pre(iMac)	2.78	3.44	3.28	2.94	3.11	3.06	3.67
post(iPhone)	2.89	3.61	3.67	3.22	3.28	2.61	3.44
t-test	0.542	0.083	0.095	0.096	0.187	0.002	0.042

	深い	広い	はっきりした	新しい	感じの良い	生き生きした	にぎやかな
pre(iMac)	3.39	3.06	3.56	3.17	2.78	2.72	2.72
post(iPhone)	3.67	4.33	3.39	2.94	2.50	2.33	2.44
t-test	0.056	0.000	0.187	0.104	0.020	0.030	0.056

図2 (アンケート結果)

5 結論

今回、多様にある鑑賞方法から2つの方法をピックアップし、調査を行った。その結果、双方の鑑賞方法において有意な形容詞にばらつきが出た。これは、同じ映像でも鑑賞方法によって印象が変わる可能性があることを示唆する。このことから、全天球映像を公開する際に、その映像に効果的な鑑賞方法を選択することが望ましい。

参考文献

- [1] 江川克之, 世界初の360度全天球映像「地球の部屋」『長久手 日本館』, 映像情報メディア学会誌, Vol. 59, No. 4, pp. 495-500, 2005.
- [2] 井上正明, 小林利宣, 日本におけるSD法による研究分野とその形容詞対尺度構成の概観, 教育心理学研究, Vol.33, No.3, pp.253-260, 1985.
- [3] 藤田良治, 山口由衣, 椎名健, 映像コンテンツの表現技法に関する評価研究, 図書館情報メディア研究, Vol4, No.1, pp.59-68, 2006.